

2026年度カレンダー デスク用 厚紙に印刷さみ カッターナイフ 穴あけの道具 ボンドか のり わりピン 青色部分は端まで使う

毎日1回まわすことで今日を大切にできます

A 裏面

2026 年度 令和8年度 祝祭日

2026 年	令和8年	2027 年	令和9年
昭和の日 4月29日(水)	敬老の日 9月21日(月)	元日 1月1日(金)	
憲法記念日 5月3日(日)	国民の休日 9月22日(火)	成人の日 1月11日(月)	
みどりの日 5月4日(月)	秋分の日 9月23日(水)	建国記念の日 2月11日(木)	
こどもの日 5月5日(火)	スポーツの日 10月12日(月)	天皇誕生日 2月23日(火)	
振替休日 5月6日(水)	文化の日 11月3日(火)	春分の日 3月21日(日)	
海の日 7月20日(月)	勤労感謝の日 11月23日(月)	振替休日 3月22日(月)	
山の日 8月11日(火)			

立てる部分

太い黒線をカッターナイフで切る

点線で谷おりする

①の部分を谷おりして直角におこし次に②の部分を谷おりしておくと③が固定する

立てるときは④の部分を谷おりして直角におこし次に⑤の部分を谷おりしておくと⑥が固定する

A 表面

2026年度 令和8年度

この灰色部分はカッターで切り取る

印刷すると用紙の端まで線が印刷されないの切るときに気をつけてね

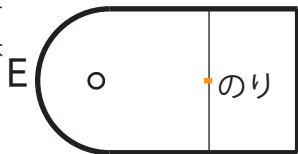
青色部分は端まで使う

山おり

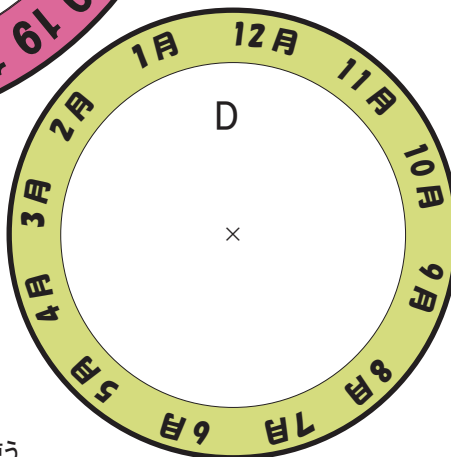
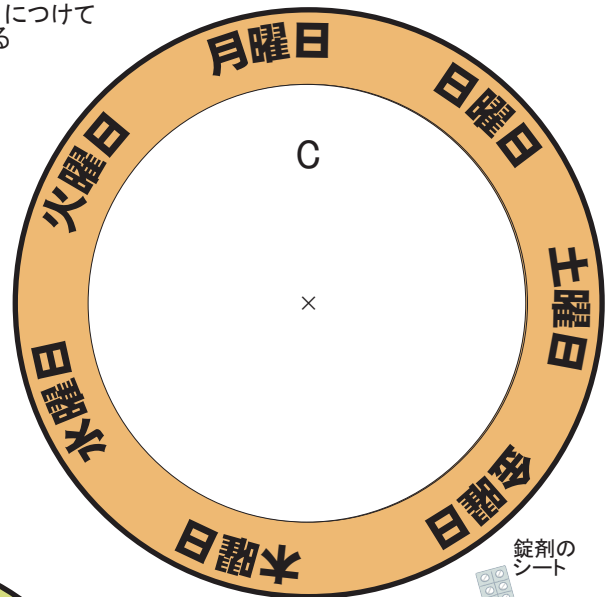
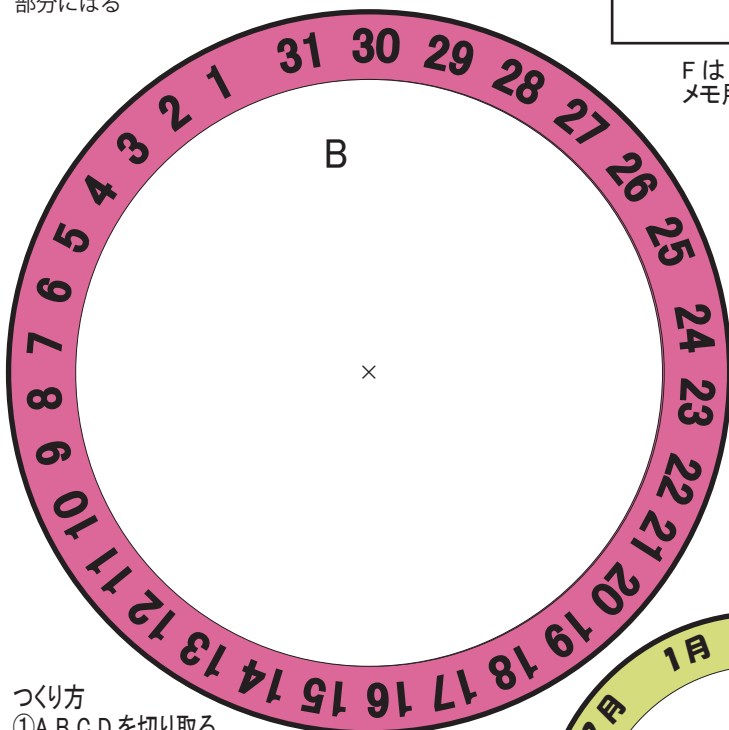
谷おり

うらにのり

吊り下げるときにつかう部品机に立てるときはいらぬ組立てが終わつたらのりをつけてAの⑦の部分にはる



FはAの表の下Gにつけてメモ用紙入れにする



つくり方

- ① A B C D を切り取る
- ② A の灰色部分をカッターで切り取る
- ③ A の表面に好きな絵やイラストをかき色をぬる
- ④ A の立てる部分の太い黒線をカッターで切る点線に折り目のすじをつける
- ⑤ A を半分に折り、A の表 × から裏へ穴をあけておく B C D の × に穴をあけ A → D → C → B → A の裏の順でわりピンにさしていき、A の裏でわりピンを広げる
- ⑥ A の表面の⑦と⑧の裏にのりをつけ山おりしてつける
- ⑦ A の表の⑨の部分の裏にのりをつけ山おりしてつける
- ⑧ 立てる部分のおり線でおり広げて立つようにして完成

※かべに吊り下げるときは⑧をつくらずに E を使う

- 図① わりピンがないとき
- つまようじや竹串を軸に使う
- 家庭にある身近なものでつくれます。薄いプラスチックや厚紙(薬を買った時の錠剤のシート ストロー 紙箱 ダンボール ハガキなど)を小さく切ったのを2つ作り穴をあける。1つを図①のようにつまようじに通し、カレンダー部品を A 表 → B → C → D → A 裏の順につまようじに通す。最後に図②のように2つめの部品をつまようじにさして、カレンダーが回るようにする。つまようじの余りを切りとる。
- 図② A 表 → B → C → D → A 裏